

に参加して

赤岩病院 リハビリテーション科
作業療法士 進藤 隆治

回復期リハビリテーション病棟協会について

障害に立ち向かうリハビリテーションの重要性が増していく高齢化社会を迎え、回復期リハビリテーション病棟協会（以下、協会）は誰もがよりよいリハビリテーションを受けられるよう回復期リハビリテーション病棟の質的向上を図り、当該医療の発展に寄与することを目的として設立されました。

赤岩病院も協会会員であり、回復期リハビリテーション病棟でのサービスの質の向上を目指し、日々、精進しています。

協会が主催する、回復期リハビリテーション医療及び当該病棟の人材育成を目的とした研究大会へ参加してきました。

研究大会の参加レポート

第43回 回復期リハビリテーション病棟研究大会in熊本のテーマは、「燈々無尽」です。これはリハビリ医療において先輩たちから受け継いだものを、さらに質を向上させて後輩たちへ引き継ぐという意味をこめてつけられました。今回の研究大会は回復期リハビリテーション病棟で必要な知識・教育・連携・チームアプローチなどの質の向上が強調されていました。そこで、印象に残ったことを3点にまとめました。



①患者満足度の向上が質を高める

私たちが提供させていただく医療サービスは、患者様の満足度を上げる努力により、さらに質が洗練されていきます。職員はやりがいを感じながら、患者様に満足していただける医療サービス提供を実施していきたいと強く感じました。

②多職種連携を向上させるためのツールの必要性

私たちは一人一人の患者様に対して、多職種で連携を取りながら、退院支援や治療に携わっています。連携が重要であることは前提ですが、連携を強める、効率よく進めるために、対等な関係づくり、専門性の共通認識を深めていく必要があると考えました。

③スタッフ教育におけるコミュニケーションの取り方

私たち医療従事者は専門的な知識を勉強し、資格を取得した者ですが、初めは誰もが新人です。また、医療は日々進歩しているため、常に勉強していくことが必要で、病院職員の教育は重要な課題です。特に実践での教育はコミュニケーションから成り立ちます。新人からベテラン、多職種間でのコミュニケーションを適切に行うことで、職員全員が学びとなる職場づくりを進めていく必要があると思いました。

この研究大会は、医師、看護師、介護士、栄養士、事務職、リハ職など多くの職種が参加しており盛大に行われます。今回学んだことを、赤岩病院の皆に伝え、多職種でディスカッションや連携を深めていき、より質の高い医療が提供できるようにしていきたいです。